

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>東エルサレムの学校や地域社会施設において、人々の健康を守り健康を促進させるための仕組みをつくり、発展させる。</p> <p><b>【これまでの成果】</b></p> <p>学校4校に保健委員会を設置し、そのメンバーとなった生徒に対して衛生・栄養・救急救命法などのトレーニングを実施した他、学校環境のモニタリングとアドバイスを実施している学校でも、既存の保健委員会のメンバーを対象に健康教育を実施した。加えて、学校教師への健康教育とトレーニングも実施したことで、保健委員会に参加する学生と教師が協働で主体的に、学校衛生の向上のための活動や、他生徒に対する健康意識向上を促す活動、健康診断で紹介された問題のフォローアップなどを行うようになってきている。また、パレスチナ自治政府教育省も学校保健の担当官を現場に派遣するなど積極的に当事業に関わるようになってきている。以上に加え、JVCとそのパートナー団体である医療救援協会(MRS)は、学校生徒と幼稚園児とその親への健康教育や健康診断、地域社会施設での健康教育や救急救命法講習も同時に行ってきた。これらの諸活動を通じて、生徒・園児・住民の健康に対する知識と意識の向上がみられるだけでなく、JVC・MRS・自治政府・地域住民・生徒・教師の間での健康を守るための連携も強化された。</p>
(2) 事業内容	<p><b>生徒のトレーニングと保健委員会の設立・活性化</b></p> <p>分離壁の東エルサレム側では、ベイト・ハニーナ地区の私立の男子校1校と女子高1校、シェイフ・ジャッラーフ地区のワクフの男子校1校に保健委員会を設置した。また、分離壁の西岸地区側でも、アナータ地区の自治政府が運営する男子校1校に保健委員会を設置した。各委員会には教師1、2人と8年生と9年生の学生約15人がそれぞれ参加しており(ベイト・ハニーナ地区の男子校17人、女子高15人、シェイフ・ジャッラーフ地区の男子校15人、アナータ地区の男子校14人)、パレスチナのNGO、Medial Relief Societyの医療チーム(以下「MRSチーム」)による講習では、参加者たちが他の生徒に対して健康に関する意識を促進する活動を行うことができるように、個人衛生、学校の衛生環境、栄養に関する基礎知識と救急法の技術を教えている。</p> <p>こうした講習は2013年1月末までに、ベイト・ハニーナ地区の男子校で11回、女子高で8回(残り2回)、シェイフ・ジャッラーフ地区の男子校で7回(残り3回)、アナータ地区の男子校で6回(残り4回)開催された。ベイト・ハニーナ地区の男子校では、全てのトレーニングが終わった後も、フォローアップのため計画よりも1回多く講習を開催した。当初計画では2012年12月末までに全ての講習を終了する予定だったが、ワクフ校および自治政府の公立校が教師によるストライキによって幾度も閉鎖されたため、講習の実施回数そのものは予定よりも遅れているが、全10回のセッションで構成される上記のトレーニングは全て2013年2月中に完了し、3月か</p>

ら5月にかけて各保健委員会の活動の観察とフォローアップに注力する予定である。また、上記のトレーニングに参加した保健委員会のメンバーは、講習と同時進行で2013年1月から4月中旬までに予定していた他の生徒への健康意識の向上の活動を学校新聞や朝礼でのスピーチなどを通じてすでに実践しており、本事業の目標である「自らの健康を守り、健康への意識を高めるための仕組みづくり」の成果はすでに出始めている。アナータ地区の学校に設置された保健委員会の活動は特に活発で、委員会メンバーの生徒が朝礼で健康的な生活や栄養のある食事について呼びかけを行ったり、栄養、衛生、喫煙の害などに関するポスターを作成して掲示板に張ったりしている。エルサレムの学校の大半は、校庭が小さく、遊具も少ないため、部活動はほとんど行われていない。そうした中、本活動は自治政府教育省および学校教師たちから、課外活動およびリーダー育成という面からも高く評価されている。

#### 学校教師に対する健康教育に関するトレーニング

2012年10月初めから11月末までに教師へのトレーニングを随時実施する予定だったが、パレスチナ自治政府教育省との調整が難航し、教員によるストライキが幾度も起こったため、12月末から2013年1月にかけて3日間の集中講習を実施することになった。

結果、2013年1月末までに、アブー・ディース地区、サワーヒラ地区、アイザリーヤ地区の学校から派遣された教師30人が、3日間の講習会に参加し、栄養・個人衛生・健康・救急法や学校の衛生環境などのトピックについて計21時間のトレーニングを受けた。また、シュアファート難民キャンプなどから派遣された幼稚園の教師15人を対象にした講習会も開催され、3日間で計21時間のトレーニングを実施した。上記のセッションでは、1日目に栄養と学校の環境に関する講習を各3時間行い、2日目に衛生に関する講習を3時間と救急法に関する講習を4時間行い、3日目に救急法に関する講習をさらに7時間実施した。残りの1時間については、初日に自己紹介と事前テストに30分、最終日にまとめと事後テストのために30分使った。(計画では、学校15校と幼稚園5校の教師20名が、計12回のセッションによるトレーニングを受ける予定)。また、このトレーニングには、下記で計画されている学校の衛生環境についてのトレーニングの講習も含まれた。

2013年1月末の段階ですでに当初計画の対象学校数を超えているが、これは、当初計画で各年度に20校を選び、そこから派遣された20名の教師を対象にトレーニングとフォローアップを実施することになっていたところを、効率性と持続的な効果を高めるため、事業初年度に学校教師30人と幼稚園教師15人を対象にトレーニングを実施し、事業2年目以降にフォローアップおよび追加的なトレーニングに注力することにしたためである。また、学校教師について、事業3年間で45人にトレーニングを実施することになっているが、今年度ですでに30人を対象にトレーニングを実施したので、事業2年目にはこれら30人の学校での活動に対するフォローアップを行

うとともに、さらに 20～30 人の教師を対象に同様のトレーニングを実施する予定である。これによって、本事業の 3 年間で、エルサレム行政区内で本事業の対象となっている 58 校全てにおいて、最低 1 人の教師が MRS チームによるトレーニングを受けることになる。

なお、上記のトレーニング終了後、MRS チームがすでに、トレーニングに参加した教員たちの各学校での活動をフォローアップし、適宜助言を行っている。計 30 校の 30 人の教師は、各学校に設置されている保健委員会の担当者となり、自発的に、トレーニング終了直後から週に 1 回ないしは隔週に 1 回(2013 年 1 月に各教師が 2～4 回)各学校の保健委員会の生徒を対象に健康教育や救急法の講習を行っている。また、15 箇所の幼稚園の 15 人の教師も、トレーニング終了直後から、自発的に、園児やその親を対象に週 1～2 回(2013 年 1 月に各教師が 4～8 回)の健康教育を行っている。加えて、トレーニングを受けた学校教師と幼稚園教師に対するフォローアップとして、事業 2 年目と 3 年目にそれぞれ 1～2 回の追加的な講習会を開催する予定である。

#### 学校に対する健康に良い環境づくりの指導

【活動 1】上記 で実施された教員に対する講習で、学校の衛生環境についてのトレーニングも同時に実施した。また、学校の衛生・安全環境の観察・インタビューを、分離壁のエルサレム側の 10 校(ベイト・ハニーナ地区の私立校 2 校、ラース・アル・アムード地区のワクフ校 1 校、シュアファート難民キャンプの私立校 1 校、ワディー・ジョーズ地区のワクフ校 1 校と私立校 1 校、旧市街のワクフ校 2 校、シルワーン地区のワクフ校 1 校、スール・バーヒル地区の私立校 1 校)と、西岸地区側の 5 校(アッラーム地区の公立校 1 校、ヒズマ地区の私立校 1 校、アナータ地区の公立校 3 校)で実施した。その後の中間モニタリングとフォローアップについても、MRS チームが健康教育やトレーニングを実施するために訪問した際に衛生環境を観察し、教師や生徒に対する助言を行っている。

教師・生徒への聞き取り、中間モニタリング、ならびにその後のフォローアップによって、下記のこと明らかとなった。本活動の開始以降、私立校での衛生環境の改善は目覚ましいが、他方で、ワクフ校と自治政府の運営する学校では、医療チームが改善を要請しても、イスラエルによる建築制限により増築ができないためにトイレや手洗所が生徒数に比べて圧倒的に少なく、いくら掃除をしてもすぐに汚れてしまうといった理由や、自治政府の財政状況の悪化で石鹸やトイレットペーパーや掃除道具を買ったり電気系統を修理したりする予算がないといった理由など、根本的な改善が図れないという事情も多く聞かれた。にもかかわらず、助言を受けた学校では、ある生徒を掃除を担当する係に任命したり、休み時間の終わりに教師総出で校庭に散らかったゴミを片づけたり、スナック菓子や炭酸飲料など不健康なお菓子を売店に置かないようにするなど、教師側での意識向上と創意工夫する姿が多々見られた。

さらに、MRS チームは各学校に設置されている既存の保健委員会のメ

ンバーになっている生徒を対象に毎月3、4回、個人衛生(手洗い、洗髪、洗顔、歯磨き、および服や靴下の小まめな洗濯など、身体を清潔に保つ方法とその重要性について)、学校の衛生環境、栄養などに関する健康教育のセッションを開催してきた。その結果、これらの保健委員会のメンバーは、学校環境の改善のためこれまで MRS チームが行ってきた生徒への助言・指導や、学校の清潔な環境や栄養ある食生活の重要性を伝える健康教育などの活動を、自分たちの手で行えるようになってきた。また、多くの学校では、MRS チームや JVC スタッフなどの部外者が来ること自体が、学校をきれいにしよう、不健康なお菓子は売らないようにしようという動機づけにもなっており、本活動を通じて教師の間で意識が高まっていることが確認できている。

【活動2】計画では、各学校に救急法を行える責任者を置くようになることを目指し、2012年12月に上記の教師に15時間の救急法トレーニングも行うことになっていた。しかし、自治政府教育省との調整が難航し、さらに1学期中ならびに2学期前半にワクフの学校および自治政府運営の学校で、給与の支払いと労働条件の改善を求める教員たちによるストライキが起き、学校が何度も閉鎖されたため、専門的な救急法トレーニングはこれから実施していく。今後の予定としては、2013年2月中に3日間の集中講習を開催し、上記でトレーニングを受けた学校教師30人と幼稚園教師15人に、15時間の救急法トレーニングを受けてもらう予定である。

#### 学校生徒・幼稚園児に対する健康診断の実施と、フォローアップ体制の構築

16校の1年生550人(計画では16校の500人)に対して体重測定・身長測定・視力検査や医師による触診などの健康診断を実施したほか、5年生と8年生の生徒700人(計画では840人)に視力検査を行った。うち、1年生では90件、5年生では25件、8年生では45件の問題が紹介された。また、幼稚園15校で園児708人を対象に健康診断を実施(計画では15校の700人)し、うち32件の健康問題(皮膚病やぜんそく、栄養失調など)が発見され、問題に応じた専門医・専門機関に紹介された。当初計画では視力検査は自治政府のガイドラインに従って5、7、10年生の生徒を対象に実施されることになっていたが、自治政府が規則を変更したため、その変更に沿って5年生と8年生を対象に検査を実施することになった。

治療が必要なケースについては、MRS チームの医師が両親宛てに診断結果や専門医に紹介する必要性を記載した手紙を渡すとともに、学校・教育省と健康診断の結果を共有し、MRS チームと協力してフォローアップすることを促している。両親が実際に生徒を医師に連れていき治療を受けさせたかどうかの確認については、1学期と2学期の間の長期休暇中(2013年1月中の2~3週間)に両親が子どもを専門医に連れていくケースが多いため、来学期(2013年2月開始)に実施する予定である。

#### 学校生徒、幼稚園児、その母親たちに対する健康教育

【活動1】2013年1月末までに、分離壁のエルサレム側37校(ワクフ15校、私立22校)西岸地区18校(公立16校、私立2校)にて、個人衛生、歯科衛生、栄養、交通安全、環境と健康などに関する健康教育セッションを計439回(9月23回、10月95回、11月118回、12月154回、1月49回)実施し、延べ4457人の男子生徒と延べ3597人の女子生徒が参加した(計画では、2012年9月から翌年8月末までに延べ16,000人を対象に実施予定)。また、エルサレム行政区の中でも特に経済社会状況が厳しく、健康診断でも紹介された問題が多かったシュアファート難民キャンプの幼稚園8箇所と旧市街の幼稚園1箇所の園児に対して、2013年1月末までに計16回の健康教育セッションを開催し、延べ1052人(男子438人、女子614人)が参加した(計画では15箇所の幼稚園の約900人の子どもを対象に実施予定)。

【活動2】学校生徒の母親に対する健康教育については、分離壁の両側の6校で、母親たちが最も関心を持っているテーマである個人衛生、肥満対策、インフルエンザの予防法、栄養ある食事などに関する教育セッションを計16回実施し、延べ203人が参加した(計画では毎年10校で延べ400人を対象に実施予定)。今後、他の4校でも、約200人の母親を対象に健康教育を実施していく予定である。また、幼稚園児の母親への健康教育では、2013年1月末までに経済社会状況が特に厳しく、健康上の問題も多いシュアファート難民キャンプの幼稚園3箇所の他、ラース・アル・アムード地区の幼稚園1箇所と旧市街の幼稚園1箇所において、豚インフルエンザ、乳癌、栄養、肥満などに関する教育セッションを計21回開催し、延べ336人が参加した(計画では毎年5箇所の幼稚園で延べ75人を対象に実施)。

参加者からの本セッションに対する評価としては、学校や幼稚園で健康教育セッションに参加した母親の多くから、「栄養ある食生活や糖尿病や肥満に関して役に立つ情報を得ることができた」、「子どもや家族の健康のためにセッションで得た情報を使いたい」、「隣人や親族で集まる場でセッションを通じて得た情報を伝えている」といった声があった。さらに、母親たちから健康教育を実施した幼稚園に対して、追加で健康教育セッションを開催してほしいという強い要望が挙がった一方、幼稚園の園長・教師からもMRSチームに対して母親たちに子どもの健康のために役に立つ知識を身につけて欲しいので健康教育セッションをさらに開催してほしいという要請もあったため、幼稚園での健康教育セッションを計画より多めに実施することとなった。

#### 地域住民に対する救急法トレーニングと、地域における救急委員会の設立

2013年1月末までに、シルワーン地区2箇所、シェイフ・ジャッラーフ地区1箇所、アッラーム地区1箇所、スール・バーヒル地区1箇所の、計5箇所の地域社会施設において、計88人を対象に、延べ38セッション(約77時間)の救急法講習を実施した(計画では、

約 15 人で構成される 5 グループに対して、それぞれ 8～10 セッションを実施予定)。アッラーム地区とシェイフ・ジャッラーフ地区にある 2 箇所の社会施設では 2013 年 1 月下旬までに全ての講習が終了したが、技術と知識の定着を図るため、MRS チームがさらにフォローアップの訪問をして、追加の講習を行った。当初計画では 2013 年 1 月末までに全ての救急法トレーニングが終了する予定だったが、2012 年 9 月から 12 月末まで、学校・地域社会施設・自治政府教育相との調整・交渉や学校・地域社会施設での健康診断や学校・生徒に対するトレーニング実施後のフォローアップに注力したため、まだ全行程の完了までは至っていないが、上記 2 箇所以外の社会施設 3 箇所での救急法講習も 2 月中に終了する予定である。さらに、2013 年 1 月にエルサレム行政区内のワディー・ジョーズ地区にある大学 1 校で救急法講習を開始し、1 月下旬までに 1 回のセッションを行った。この大学では 3 月下旬には全てのトレーニングが完了する予定である。加えて、分離壁の西岸地区側に位置するアブー・ディース地区の大学 1 校でも 2 月に講習を開始し、3 月下旬までに全てのセッションを実施する予定である。

なお、各グループには、中学生、高校生、大学生のほか、主婦や保育園教師や地域社会施設職員など多様な年齢と職業の地域住民が参加している。参加者の中には週 1 日しかない職場の休日を使って参加する女性や、大学での勉学とアルバイトの合間に参加する学生もあり、地域住民の間での救急法講習への関心とニーズの高さが表れている。

今後は、上記の 5 箇所の社会施設と大学 2 校の救急法トレーニングを受けた参加者の中から各 2～3 名を選出し、4 月中に開催予定の集中講習において、さらに 10 時間の専門的な救急法トレーニングを提供する。これによって、4 月中には専門的な救急法の知識と技術を身に付けた救急法委員会がエルサレム行政区内の各地で活動を開始できる予定である。

#### 地域住民に対する健康教育と健康診断の実施

【活動 1】2013 年 1 月末までに、シルワーン地区 2 箇所、シェイフ・ジャッラーフ地区 1 箇所、ワディー・ジョーズ地区 1 箇所、アナータ地区 1 箇所、イッサウィーヤ地区 1 箇所、シュアファート地区 1 箇所、スール・バーヒル地区 1 箇所、旧市街 1 箇所の、計 9 箇所の地域社会施設において、計 47 回の健康教育セッションを実施し、延べ 490 人の地域住民(主に女性)が参加した(計画では、計 30 回のセッションに延べ 450 人が参加する予定)。

【活動 2】2013 年 1 月末までに、東エルサレム全域で「メディカル・デー」を計 21 回開催し、計 746 人の地域住民を対象に健康診断を行った(計画では、ベドウィン集落への巡回診療も含めて毎年 20 回健康診断を実施し、計約 400 人が参加する予定)。うち、肥満・糖尿病・近視・遠視など 129 ケース(1 人の住民が複数のケースを持つ場合あり)が紹介された。また、ベドウィン集落を訪問して健康診断を行う巡回診療を計 6 回実施し、計 104 人が健康診断を受けた。うち

	15 ケースが紹介された。
(3) 達成された効果	<p><b>学校に保健委員会が設立され、健康に対する意識を促進させることができるようになる</b></p> <p>&lt;指標1&gt; 4校の学校に保健委員会が設置される。  &lt;効果&gt; 予定通り、分離壁の両側の公立・私立校4校に保健委員会を設置し、各委員会には教師1、2人と学生約15人が参加している。</p> <p>&lt;指標2&gt; 40人の保健委員会のメンバーが他の生徒たちに教えられる知識と技術を習得する。(トレーニングを受けた生徒の80%以上が、70%以上の健康に関する正しい知識を得る)  &lt;効果&gt; 2013年1月末までに、4つの保健委員会のメンバー約60人を対象に、延べ32回のMRSチームによる健康教育・救急法の講習を実施した。ワクフ校および自治政府の公立校が教師によるストライキによって幾度も閉鎖されたため、講習の実施回数そのものは予定よりも遅れており、トレーニング終了後のテストも今後実施予定である。また、全てのトレーニングが終了したベイト・ハニーナ地区の学校での事後テストについては、2月中の次回訪問時に実施予定である。だが他方で、保健委員会のメンバーは講習と同時進行で2学期に予定されていた他の生徒への健康意識の向上の活動を学校新聞や朝礼でのスピーチなどを通じてすでに実践しており、本活動の効果はすでに出始めている。</p> <p><b>学校教師が、生徒たちに健康教育を行えるようになる</b></p> <p>&lt;指標1&gt; 20校の教師が、生徒に特定のトピックに関して教えられる知識と技術を習得する。(トレーニングを受けた教師の85%以上が、80%以上の健康に関する正しい知識を得る)  &lt;効果&gt; 2013年1月末までに、学校教師30人が、MRSチームによる計21時間の講習会に参加してトレーニングを受けた(21時間は、下記で計画されている学校の衛生環境についての講習3時間も含めた時間数)。幼稚園の教師15人に対しても計21時間のトレーニングが実施され、学校環境の改善や子どもたちの健康を守るために必要な知識と技術を習得することができた。</p> <p>また、学校教員がトレーニングの開始前に受けたテストでは、80%以上の正解を得た教師は全体の31%に過ぎなかったが、トレーニング終了後には82%の教師が84%の正解を得ることができた。また、全教師の平均正解率は、トレーニング開始前には66.7%に過ぎなかったが、トレーニング終了後には86.3%まで上昇した。また、幼稚園教師がトレーニング前に受けたテストでは、80%以上の正解を得た教師は16%に過ぎなかったが、トレーニング後に受けたテストでは38%の教師が91%以上の正解を得た。平均正解率でも、トレーニング前には61.3%だった正解率が、トレーニング終了後には70.5%</p>

まで上昇した。しかし、幼稚園教師については目標値に達していないので、今後、原因を調査するとともに、さらなるトレーニングと各教員を対象にしたフォローアップを行い、知識・技術レベルの向上を図る予定である。

<指標2> 学校教師たちが、特定のトピックに関して健康教育を生徒たちに対し行えるようになる(それぞれの学校で教師たちが5セッション、幼稚園で4セッションの健康教育を実際に行う)。

<効果> トレーニング終了後、MRS チームが、トレーニングに参加した教員たちの各学校での活動をフォローアップし、適宜助言を行っている。計30校からトレーニングに派遣された30人の教師は、各学校に設置されている保健委員会の担当者となり、トレーニング終了直後から週に1回ないしは隔週に1回(2013年1月中に各教師が2~4回) 各学校の保健委員会の生徒を対象に健康教育や救急法の講習を行った。また、15箇所の幼稚園の15人の教師も、トレーニング終了直後から、園児やその親を対象に週1~2回(2013年1月に各教師が4~8回)の健康教育を行っている。トレーニングでMRS チームが教師に提供した知識と技術は、実際の教師たちの活動に生かされており、それが生徒主体の保健委員会の活動と合わさることで、より大きな効果を生んでいる。今後さらに、同じ教師を対象に救急法の15時間のトレーニングが実施されることで、保健担当の教師の知識・技術レベルはより向上するとともに、より実践的な保健委員会の活動が可能になることが期待される。

#### **学校が、健康に良い学校の環境を保つ重要性を意識できるようになる**

<指標1> 20校の学校教師が、環境が健康に与える影響についての知識を得る。(トレーニングを受けた全ての教師が、90%以上の学校環境に関する正しい知識を得る)

<効果> 上記の講習において、学校の衛生環境についてのトレーニングも同時に実施された。上記の効果にある通り、学校教員がトレーニングの開始前に受けた学校環境・衛生・栄養・救急法に関するテストでは、80%以上の正解を得た教師は全体の31%に過ぎなかったが、トレーニング終了後には84%の正解を得た教師が全体の82%となった。また、全教師の平均正解率は、トレーニング開始前の66.7%から、トレーニング終了後には86.3%まで上昇した。また、幼稚園教師がトレーニング前に受けたテストでは、80%以上の正解を得た教師は全体の16%に過ぎなかったが、トレーニング後に受けたテストでは91%以上の正解を得た教師が38%に達した。平均正解率でも、トレーニング前には61.3%だった正解率が、トレーニング終了後には70.5%まで上昇した。しかし、上述の<指標1>の効果に記載した通り、幼稚園教師については目標値に達していないので、今後、さらなるトレーニングを実施するとともに、各教員を対象にフォローアップを行い、知識・技術レベルの向上を図る予定である。

<指標2> 20の学校に、応急処置を担当する教師がいるようになる。



<効果>現段階では、ワクフ校と自治政府が運営する公立校で教員によるストライキが頻発したため、と の健康教育、学校環境、基本的な救急法に関するトレーニングを実施したのみだが、2月中には幼稚園教師15人を対象に専門的な救急法トレーニングを実施し、3月までには学校教師30人を対象にした救急法トレーニングも実施する予定である。すでに21時間の健康教育や基本的な救急法に関するトレーニングを受けた同じ教師が、さらに専門的な救急法に関する15時間のトレーニングを受けることで、すでに各学校で活動を開始している保健担当の教師の知識・技術レベルがより向上し、より実践的・持続的な保健委員会の活動が可能になることが期待される。

<指標3>45校の学校教師が、それぞれの学校の環境における問題点や改善すべき点について理解する(学校に対する事前/事後の観察およびインタビュー)

<効果>計15校で、事前の観察と教師へのインタビューならびに定期的なモニタリングを実施した。その後のフォローアップと中間モニタリングについても、MRSチームが健康教育やトレーニングを実施するために学校を訪問した際に改善状況を観察し、教師や生徒に対する助言を行っている。それらの結果、本活動の開始以降、私立校での学校環境の改善は目覚ましいことが分かったが、他方で、医療チームが改善を要請しても根本的な改善が図れないという事情も多く聞かれた(先述(2)の【活動1】にあるような政治的・経済的事情による)。にもかかわらず、助言を受けた学校では教師側での意識向上と創意工夫する姿が多々見られた。さらに、MRSチームは既存の保健委員会の生徒を対象に月数回の健康教育のセッションを開催するとともに、これら生徒による学校環境の改善のための活動に対して随時フォローアップ・助言している。

#### **学校教師が、生徒・子どもの健康に関する問題をフォローアップできるようになる**

<指標>学校教師が、医師により紹介された問題をフォローアップすることの重要性に対する意識を向上させ、紹介された問題の90%以上が、紹介後に適切にフォローされるようになる。

<効果>学校での健康診断・視力検査で160件の問題が専門医に紹介され、幼稚園の健康診断で32件の問題が紹介された。これらのケースについて、MRSチームの医師が学校を通じて両親宛てに診断結果や専門医に紹介する必要性を記載した手紙を渡すとともに、学校・教育省と健康診断の結果を共有し、MRSチームと協力してフォローアップすることを促している。両親が実際に生徒を医師に連れていき治療を受けさせたかどうかの確認については、1学期と2学期の間の長期休暇中に両親が子どもを専門医に連れていくケースが多いため、来学期(2013年2月開始)に実施する予定である。

**学校生徒、子ども、親たちが健康に関する知識を得られるようになる。**

<指標1>毎年、約16,000人の生徒および約900人の幼稚園児が健康に関する知識を得られ、うち80%以上が70%以上の健康に関する正しい知識を得られるようになる。

<効果>2013年1月末までに、延べ8054人の生徒を対象に健康教育セッションを計439回(9月23回、10月95回、11月118回、12月154回、1月49回)実施した。幼稚園児に対しては計16回の健康教育セッションを開催し、シュアファート難民キャンプと旧市街の9箇所の幼稚園から延べ1052人(男子438人、女子614人)が参加した。

さらに、6校の254人の学校生徒を対象にセッション開始前と終了後にサンプル調査を実施した。衛生に関するテストでは、開始前に、70%以上の正解を得た生徒は全体のうち78%だったが、セッション終了後には、86%の生徒が70%以上の正解を得ることができた。また、開始前に70%以上の正解を得た生徒の平均正解率は94%であった一方、終了後に70%以上の正解を得た生徒の平均正解率は97%だった。栄養に関するテストでは、セッションの開始前に、70%以上の正解を得た生徒は全体のうち65%だったが、セッション終了後には、85%の生徒が70%以上の正解を得ることができた。さらに、開始前に70%以上の正解を得た生徒の平均正解率は77%だったが、終了後に70%以上の正解を得た生徒の平均正解率は84%まで上昇した。貧血に関するテストでは、セッション開始前に70%以上の正解を得た生徒は全体のうち4%に過ぎなかったが、セッション終了後には、63%の生徒が70%以上の正解を得ることができた。このセッション終了後に実施されたテストで70%以上の正解を得た生徒の平均正解率は73%だった。

<指標2>約475人の学校生徒および幼稚園児の親が、健康に関する知識を得られる。(参加した母親に対するインタビュー)

<効果>2013年1月末までに、学校生徒の母親を対象にした健康教育セッションを、分離壁のエルサレム側に位置するシェイフ・ジャッラーフ地区のワクフ校1校、スール・バーヒル地区の私立校1校、旧市街のワクフ校2校の計4校と、分離壁の西岸地区側に位置するシェイフ・サアド村のワクフ校1校で計13回実施し、延べ203人が参加した。また、幼稚園児の母親を対象にした健康教育セッションを、エルサレム行政区の中でも特に経済社会状況の厳しいシュアファート難民キャンプの幼稚園3箇所とラース・アル・アムード地区の幼稚園1箇所と旧市街の幼稚園1箇所において計22回実施し、延べ336人が参加した。

活動の効果を測るため、参加した母親に口頭でのテスト(4択問題)を実施した。学校3校で実施した糖尿病に関するテストでは、健康教育セッションの開始前には62%の参加者が正解を答えたが、セッション終了後にその割合は88%に上昇した。また、学校2校で実施した栄養に関するテストでは、セッション開始前に正解を答えた参加者は全体の60%だった一方、セッション終了後のそれは86%だった。学校2校で行ったインフルエンザに関するテストでも、セッション開始前に69%だった正解率が、セッション終了後には84%まで上昇した。

幼稚園でも園児の母親を対象に口頭でテストを実施した。まず、幼稚園2ヶ所で実施した糖尿病に関するテストでは、セッション開始前に正解を答えた参加者は全体の67%だったが、セッション終了後には93%まで上昇した。幼稚園4ヶ所で行った栄養に関するテストでも、正解率がセッション前後で60%から84%に上昇した。幼稚園2ヶ所で実施したインフルエンザに関するテストでは、セッション開始前には62%の参加者が正解を答えた一方、セッション終了後には87%の参加者が正解を得ることができた。

以上のテスト結果から、健康教育セッションに参加した学校生徒の母親の多くが、栄養・糖尿病・インフルエンザに関する正しい知識を得ることができたと結論づけられる(正解を得た参加者の割合が、セッション前後で63%から86%に上昇)。また、健康教育セッションを受けた幼稚園児の母親も、栄養・糖尿病・インフルエンザに関する正しい知識を身につけることができたと言えるだろう(正解を得た参加者の割合が、セッション開始前の62%から、セッション終了後に88%まで上昇)。

#### 東エルサレムの青少年の間に、救急委員会が設立される。

<指標1> 約75人の青少年が、救急法の知識と技術を得られ、80%以上が70%以上の救急法に関する正しい知識と技術を得られるようになる。

<効果> 計5箇所の地域社会施設で計88人を対象に、延べ38セッション(約77時間)の救急法講習を実施し、うち1箇所では12月下旬に全ての講習が終了した。

本活動でも、正しい知識と技術の習熟度を測るため、講習開始前と終了後にテストを実施した。まず、アッラーム地区の社会施設で講習開始前と終了後に実施したテストでは、全参加者の平均正解率が69%から84%に上がり、70%以上の正解を得た参加者の割合も58%から61%まで上昇した。さらに、これら61%の参加者の平均正解率は90%だった。第2に、シェイフ・ジャッラーフ地区の社会施設で実施したテストでは、講習前に70%以上の正解を得た参加者は全体の77%だったが、講習終了後に実施したテストでは全ての参加者が70%以上の正解の正解を得た。参加者全員の平均正解率も開始前後で74%から80%に上昇した、以上から、シェイフ・ジャッラーフ地区では参加者全員が指標で設定された目標値を上回る知識を身に付けたことが分かるが、他方で、アッラーム地区の社会地域施設では平均正解率が大きく上がり、70%以上の正解を得た参加者の平均獲得点数も高いものの、全体としては目標値に達していないので、今後フォローアップの講習を実施していく必要があると考えられる。

<指標2> 救急法を習得した上記青少年の中から、アクティブなボランティア10人が2つの救急法委員会を設立する。委員会は地域の救急法のニーズに応える活動を自主的に行う。

<効果> 現段階ではまだ、4箇所の地域社会施設で基礎的な救急法講習を実施しているところであり、大学での救急法講習も2月に開

始予定であるため、救急法委員会設立のための専門的なトレーニングを実施するまでには至っていない。

**対象地域の住民が、健康に関する知識と健康に対する意識を得られるようになる。**

<指標1> 約450人の地域住民が、健康と衛生に関する知識を得られ、80%以上が、70%以上の健康と衛生に関する正しい知識を得られるようになる。

<効果> 計画通り、2013年1月末までに計47回の健康教育セッションを実施し、延べ490人の地域住民(主に女性)が参加した。アナータ地区とシュアファート地区とシルワーン地区の地域社会施設3箇所で開催された栄養・糖尿病・インフルエンザに関するテストでは、健康教育セッションの開始前には正解を得た参加者の割合は全グループ平均で46%だったが、セッション終了後に実施したテストでは73%まで上昇した。また、70%以上の正解を得た参加者の割合はセッション実施前には13%に過ぎなかったが、セッション実施後には61%の参加者が70%以上の正解を得ることができた。以上から、セッションを実施することで参加者が多くの知識を得られたことが分かる一方で、事後テストで70%以上の正解を得た参加者の割合が目標値に達していないので、今後その原因を究明するとともに、参加者の知識レベルに合わせたセッションの方法や内容について検討していく予定である。なお、健康教育セッションの参加者へのインタビューからは、参加者の多くがセッションで得た健康や栄養に関する情報を子育てや家族の健康管理のために日常的に役立てているとともに、家族・親族・友人・隣人にセッションで得た情報を伝えていることが分かった。MRSチームが実施する健康教育が地域住民や地域社会施設の間で好評で、他の住民や地域社会施設からも同様のセッションを開催してほしいという要望が挙がっている。

<指標2> 約400人の地域住民が、健康診断および個人カウンセリングを通し、自らの健康状態に対する意識を向上させることができる。

<効果> 2013年1月末までに、「メディカル・デー」を計21回開催し、計746人の地域住民に健康診断を行った。うち、129ケースが紹介された。また、ベドウィン集落での巡回診療を計6回実施し、計104人が健康診断を受け、15ケースが紹介された。また、健康診断ではMRSチームの医師による個人カウンセリングも実施され、個々の地域住民が抱える健康上の問題に相談に乗るとともに、BMI値の高い住民に対しては肥満や糖尿病の危険性と健康的な生活の重要性について伝え、MRSの作成した肥満を防ぐための食生活に関するパンフレットや、糖尿病の症状や予防法に関するパンフレットも渡すことで、自らの健康状態に対する意識を向上させるように努めた。さらに、ベドウィンに多く見られる皮膚病については、個人カウンセリングの際に処方箋や医薬品を渡すと同時に、その原因と対処法を伝えることで健康管理への意識と知識の向上を図った。健康診断に参加した地域住民からは、普段健康診断を受ける機会がない

	<p>ために気付かなかった健康上の問題を認識することができたという声や、自分の健康状態に対する認識を改め、より健康に良い食生活を送るように気をつけたいという声があった。</p> <p>&lt;指標3&gt; 約900人の青少年、子どもたちが、地域社会施設の行うサマーキャンプでの健康教育で、健康と衛生に関する知識を得られる。</p> <p>&lt;効果&gt; サマーキャンプは、2013年8月から開催される予定でまだ活動は実施されていないので、効果を図る段階にはない。</p>
(4) 今後の見通し	<p><b>生徒のトレーニングと保健委員会の設立・活性化</b></p> <p>トレーニングの講習は、ベイト・ハニーナ地区の女子高で残り2回、シェイフ・ジャッラーフ地区の男子校で残り3回、アナータ地区の男子校で残り4回開催する予定である。前者2校の講習は2013年2月中に全て終了し、後者1校での講習は3月初めに全て終わる予定である。上記(2)にある通り、講習が終了していない学校でもすでに保健委員会が活動を始めており、MRSチームはすでにフォローアップと助言・指導を開始しているが、全ての講習が終了する3月初めからはフォローアップと助言・指導により注力していく。</p> <p><b>学校教師に対する健康教育に関するトレーニング</b></p> <p>引き続き、学校の学期末テストが始まる5月末まで、MRSチームは、各学校を最低2回訪問し、各教員が学校・幼稚園で実施する健康教育のモニタリングとフォローアップを行う。</p> <p><b>学校に対する健康に良い環境づくりの指導</b></p> <p>【活動1】2学期末の4月から5月にかけて、1学期初め(2012年9月から10月)にモニタリングと評価テストを実施した学校15校を対象に、学校環境を測るための事後テストを実施する。また、MRSチームは、本事業2年と3年目にも引き続き、これら15校の学校を継続的に訪問し、フォローアップ(観察・指導・助言)を行っていく予定である。</p> <p>【活動2】2012年12月と2013年1月に計21時間のトレーニングを受けた学校教師30人と幼稚園教師15人を対象に、2013年2月中に3日間の集中講習会を開催し、15時間の専門的な救急法トレーニングを与える予定である。</p> <p><b>学校生徒・幼稚園児に対する健康診断の実施と、フォローアップ体制の指導</b></p> <p>2学期(2013年2月から5月まで)に、健康診断で紹介されたケースが学校教師と生徒の両親によって適切にフォローアップされ、各生徒が専門医による診断・治療を受けたかどうか、各学校に確認していく予定である。診断・治療を受けなかったケースについては、MRSチームの医師と保健指導員が学校側と相談しながら、生徒と両親と面談するように努め、専門医の治療を受けることの重要性を伝えていくとともに、学校教師との協力のもとでフォローアップ</p>

を続けていく。

#### 学校生徒、幼稚園児、その母親たちに対する健康教育

【活動1】2013年1月末までに延べ8054人の生徒を対象に健康教育を実施したので、2013年2月から5月までに、MRSチームの医師と保健指導員が各学校を訪問し、残り7946人の生徒にも健康教育を実施していく予定である。ワクフと自治政府運営の学校では再度ストライキの実施が予想されるので、その場合は私立校やストライキが実施されなかった公立校で集中的に健康教育を実施するとともに、地域社会施設などを利用して同年代の学校生徒が健康教育を受けられるように配慮する。

【活動2】学校生徒の母親に対する健康教育については、すでに6校で延べ203人を対象に実施したので、他の4校にて延べ197人を対象に健康教育を実施する予定である。教員によるストライキ等の理由により計画通りの実施が難しくなった場合は、幼稚園児や地域社会施設にて学校に通う子どもをもつ母親を対象に健康教育を実施していく。

#### 地域住民に対する救急法トレーニングと、地域における救急委員会の設立

2013年3月までに、すでに講習を終了したアッラーム地区とシェイフ・ジャッラーフ地区の地域社会施設に加え、シルワーン地区2箇所、スール・バーヒル地区1箇所、シェイフ・ジャッラーフ地区の高等教育機関1校での救急法トレーニングも終了する予定である。全ての救急法トレーニング終了後、各グループから数名を選出し、分離壁のエルサレム側と西岸地区側で4月に各1回ずつ2～3日間の集中講習会を開催し、それぞれ10時間の専門的な救急法のトレーニングを実施する予定である。なお、この集中講習会の終了後には、参加者10～15人で構成される救急委員会を、分離壁のエルサレム側と西岸地区側に1つずつ設置する予定である。

#### 地域住民に対する健康教育と健康診断の実施

【活動1】地域社会施設での地域住民を対象にした健康教育については、事後テストで70%以上の正解を得た参加者の割合が高まったものの目標値に達していない件に関しセッションの方法や内容の検討を行う。それ以外は計画通りの進捗が見られており、予定していた住民数に対して教育を提供したので、本事業1年目の活動は終了する。

【活動2】地域社会施設や学校において地域住民を対象に実施してきた「メディカル・デー」についても、予定していた回数と対象者数を上回ったので、本事業1年目の活動としては終了する。ベドウィン集落を対象にした巡回診療については、2013年9月まで引き続き、毎月1回程度実施していく予定である。また、「メディカル・デー」と巡回診療の健康診断で紹介されたケースについては、2月か9月までMRSチームが同じ村や集落を再度訪問し、専門医での診断と

	<p>治療が適切に行われたかどうかフォローアップを行うとともに、必要に応じて、紹介された地域住民を対象に個人カウンセリングを実施し、専門医での診断と治療の重要性を伝えるとともに、自己管理の必要性を指導していく予定である。</p> <p>【活動3】学校と幼稚園が夏休みに入る2013年7月以降は、MRSチームは、地域社会施設が主催するサマーキャンプ10箇所を各3回訪問し、約900人の子どもたちに対して健康教育と身体測定を行う予定である。</p>
--	--